

令和5年6月30日

予察情報 5-4

病害虫発生予察情報 第4号

富山県農林水産総合技術センター所長

7月の病害虫発生予報

【予報の概要】

水稲				果樹						
作物名		病害虫名	発生量	発生時期	作物名		病害虫名	発生量	発生時期	
水稲		いもち病（葉いもち）	並	並	野菜	白ねぎ	軟腐病	やや多い	—	
		いもち病（穂いもち）	並	並			ネギアザミウマ	やや少ない	—	
		紋枯病	並～やや少ない	並			ネギハモグリバエ	やや少ない	—	
		稲こうじ病	並	並			シロイチモジヨトウ	並	—	
		斑点米カメムシ類					ハスモンヨトウ	やや少ない	並	
		アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	—		野菜全般	アブラムシ類	少ない	—	
		アカスジカスミカメ	やや多い	—	果樹	りんご	果樹全般	カメムシ類	並	—
		トゲシラホシカメムシ	並	—			褐斑病	やや多い	並	
		ニカメイガ（第2世代）	やや多い （局部多い）	やや早い			輪紋病	少ない	並	
		ツマグロヨコバイ	並～やや多い	—			ハダニ類	並	—	
		ヒメトビウンカ	並～やや多い	—			キンモンホソガ	少ない	—	
		セジロウンカ	やや少ない	やや遅い		日本なし	黒星病	多い	—	
		イネアオムシ	やや少ない	並			輪紋病	少ない	並	
		イナゴ類	やや少ない	—			ナシヒメシンクイ	やや多い	—	
							ハダニ類	並	—	
大豆		葉焼病	やや多い	並		ぶどう	べと病	並～やや多い	—	
		ウコンノメイガ	並	並		かき（三社）	フジコナカイガラムシ	やや少ない	—	
		ハスモンヨトウ	やや少ない	並		もも	灰星病	並	並	
		フタスジヒメハムシ	並	—			せん孔細菌病	やや少ない	—	
		アブラムシ類	並	—	花き	きく	きくの白さび病	並	—	
		ハダニ類	並	並			きくのハダニ類	並	—	
野菜	白ねぎ	さび病	並	—		花き全般	アブラムシ類	少ない	—	
		黒斑病 ・ 葉枯病	少ない	—			タバコガ類	少ない	—	

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111

FAX 076-429-7974

情報参考URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>農業研究所
病害虫発生予報

I 水 稲

1 いもち病（葉いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- ・ 6月20日調査において、被害葉は確認されなかった。
- ・ 苗箱施用剤、種子処理剤の普及率が高い。

(3) 防除対策

- ・ 放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・ B L A S T A M情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。なお、平年の初発確認日は7月12日である。
- ・ 防除指針 30～31 ページ参照



BLASTAM
(随時更新)

表 6月のBLASTAM判定結果

月日	朝日	魚津	上市	富山	八尾	伏木	氷見	砺波	南砺高宮
6月11日	4	—	4	—	4	—	—	—	—
6月12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	●	—	—	—	—
6月15日	●	●	—	●	—	—	●	●	—
6月16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	●	●	—	—	●	●	●	●
6月23日	—	—	—	—	—	—	●	●	●
6月24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月29日	—	—	—	2	—	●	—	—	—
6月30日									

<発生指標>

●：好適条件（湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が十分で、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温が20～25℃の範囲内）

1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が20℃未満）

2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が25℃以上）

3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、湿潤時間中の平均気温が15～25℃の範囲外）

4：準好適条件（湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数よりも短い）

—：好適条件なし

※ 6月1日から10日まで間、好適条件日は観測されなかった

2 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月の気温はほぼ平年並みと予想されており、水稻の出穂期は平年並みと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 32～33 ページ参照

3 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：並～やや少ない
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- 【少発要因】
- ・ 前年の発生量は少なかった。
 - ・ 6月20日調査において、発生は確認されなかった（平年の初発確認日は6月23日）。
 - ・ 6月27日の生育観測ほの調査では茎数が少なかった。
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 29～30 ページ参照

4 稲こうじ病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月の気温はほぼ平年並みと予想されており、水稻の出穂期は平年並みと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・ 前年に発生の多かったほ場では発生リスクが高いため防除を徹底する。
 - ・ 防除指針 35ページ参照

5 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は2.1頭で、平年（3.3頭）より少なかった。
 - ・ 7月の平均気温はほぼ平年並みと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・ 斑点米カメムシ類の繁殖を抑えるため、7月上旬の畦畔および雑草地の草刈りを徹底する。
 - ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
 - ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
 - ・ てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を徹底する。
 - ・ 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。

- ・近隣に雑草地や麦あとと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるので防除を徹底する。
- ・割粃の発生が多いと予想される場合や散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・防除指針 42、44ページ参照

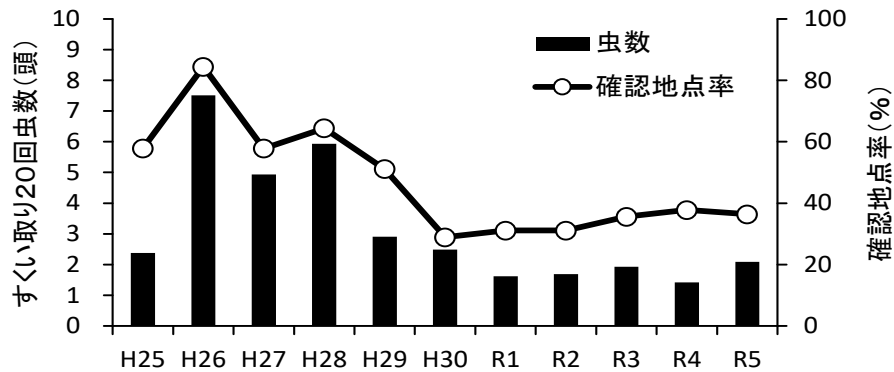


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

6 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は3.5頭で、平年（2.2頭）より多かった。
- (3) 防除対策
 - ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
 - ・防除指針 42、44ページ参照

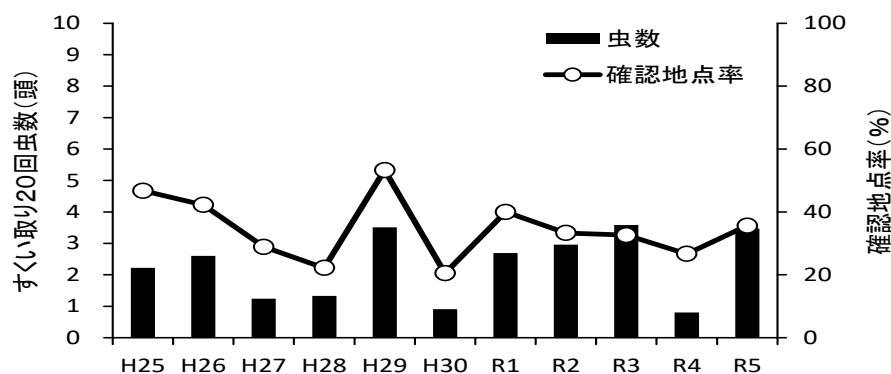


図2 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

7 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.1頭で、平年（0.1頭）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 43～44ページ参照

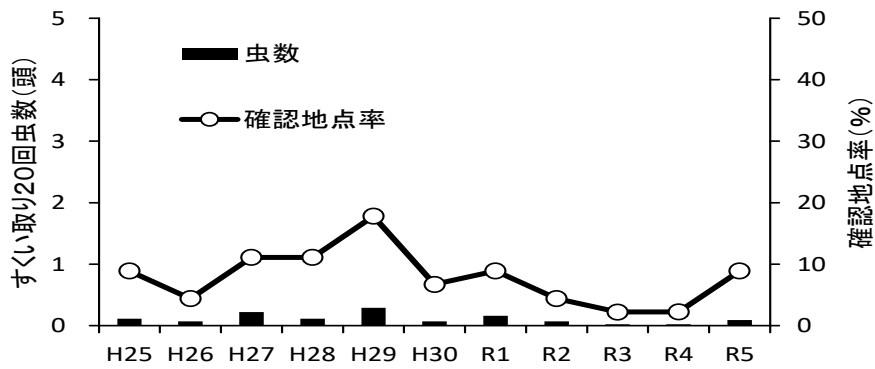


図3 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移(6月20日調査)

8 ニカメイガ(第2世代)

- (1) 予報内容 発生量: やや多い(局部多い)
発生時期: やや早い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月20日調査の被害株率は1.2%で、平年(0.6%)より高く、局部的であった。

【早発要因】

- ・フェロモントラップによる誘殺数のピークは、近年の5月6半旬よりも1半旬早い5月5半旬であった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 37～38 ページ参照

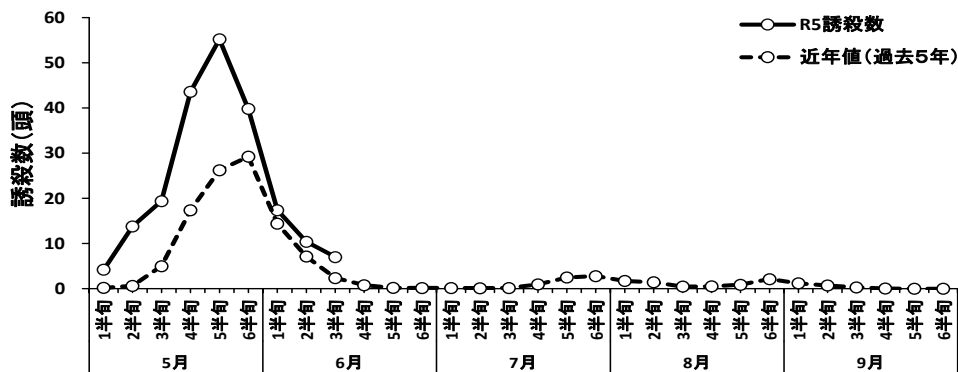


図4 フェロモントラップによるニカメイガの誘殺数の推移

9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量: 並～やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月20日調査のすくい取り虫数は0.6頭で、平年(0.1頭)より多かった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 39 ページ参照

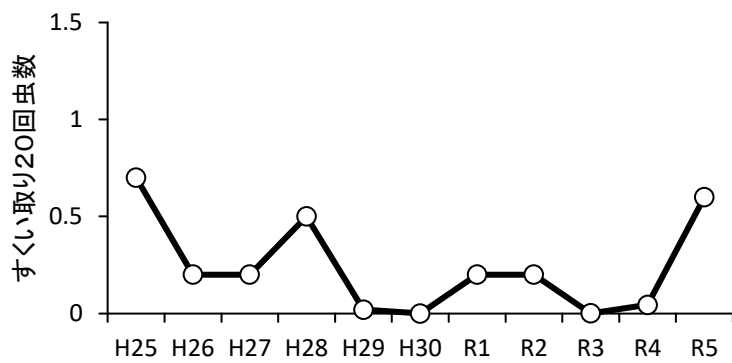


図5 ツマグロヨコバイの本田すくい取り状況年次推移(6月20日調査)

10 ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量：並～やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 6月20日調査のすくい取り虫数は1.1頭で、平年(0.7頭)より多かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 40～41 ページ参照

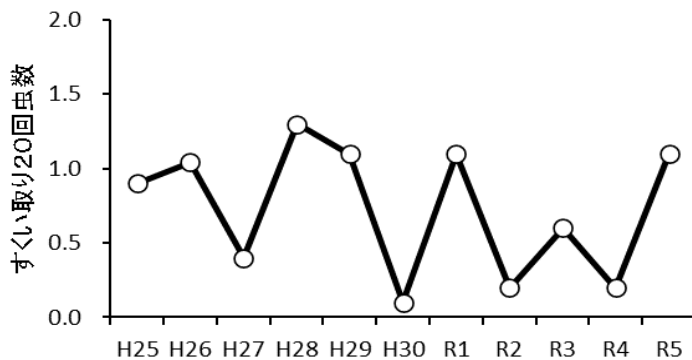


図6 ヒメトビウンカの本田すくい取り状況年次推移(6月20日調査)

11 セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

発生時期：やや遅い

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6月20日調査のすくい取りでは確認されず、平年(0.1頭)並であった。

【遅発要因】

- ・ 現在、発生は確認されていない(平年の初発確認日は6月27日)。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 40～41 ページ参照

1 2 イネアオムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6 月 20 日調査のすくい取りでは確認されず、平年（0.1 頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 41 ページ参照

1 3 イナゴ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6 月 20 日調査のすくい取り虫数は 1.8 頭で、平年（2.8 頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 38 ページ参照

Ⅱ 大 豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7 月の降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 55 ページ参照

2 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・ 7 月の気温はほぼ平年並と予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
- ・ 防除指針 55 ページ参照

3 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月1半旬～4半旬の誘殺数は17.8頭で、平年（26.4頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 57 ページ参照

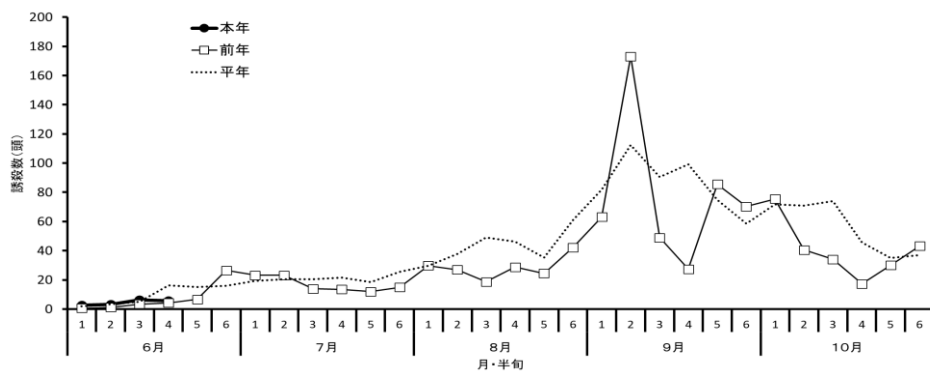


図7 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数の推移

4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：並

- (2) 予報の根拠

- ・6月25日調査の被害株率は2.7%で、平年（3.0%）並であった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 57 ページ参照

5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並

- (2) 予報の根拠

- ・6月25日調査の寄生株率は0%で、平年（0.0%）並に低かった。
- ・種子処理剤の普及が進んでいる。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 56 ページ参照

6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 6 月 25 日調査の寄生株率は 0 %で、平年 (0.2%) 並に低かった。
- ・ 7 月の気温はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針55ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 6 月 25 日調査の発病株率は 17.6%で、平年 (16.2%) 並であった。

(3) 防除対策

- ・ 発生を確認したら防除を徹底する。
- ・ 防除指針 98 ページ参照

2 白ねぎの黒斑病 ・ 葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6 月 25 日調査の発病株率は 0.8%で、平年 (1.4%) より低かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 98～99 ページ参照

3 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7 月の降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 99 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発 生 量 : やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月25日調査の被害株率は27.2%で、平年（53.0%）より低かった。

- (3) 防除対策
- ・防除指針 100 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量: やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6 月 25 日調査の被害株率は 8.0%で、平年（16.5%）より低かった。

- (3) 防除対策
- ・防除指針 99～100 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量:並
(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数は10.6頭で、平年（12.4頭）並であった。

- (3) 防除対策
- ・防除指針 100～101 ページ参照

7 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
発生時期：並

- ## (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月1半旬～4半旬の誘殺数は17.8頭で、平年（26.4頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策
- ・防除指針 68～134 ページのハスモンヨトウの項を参照

8 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少癸要因】

- ・黄色水盤への有翅虫の6月1半旬～4半旬の誘殺数は150頭で、平年（299.5頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 68～134ページのアブラムシ類の項を参照

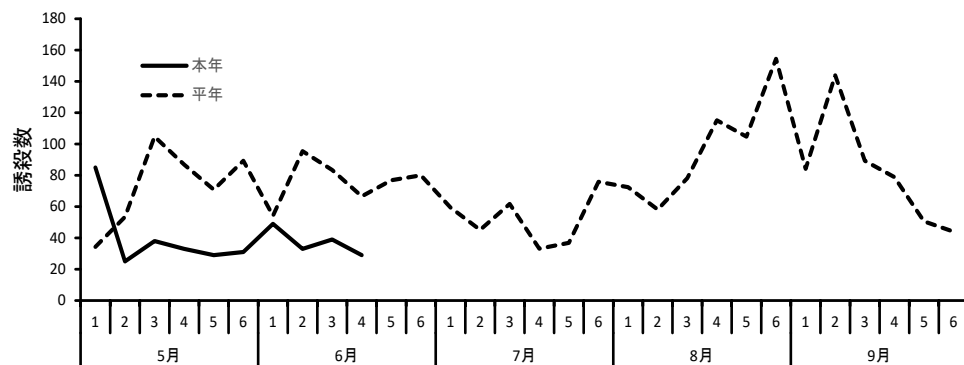


図8 黄色水盤によるアブラムシの誘殺数の推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は12.9頭で、平年(22.3頭)並であった。
- ・7月の気温はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、園地への飛来がみられる場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド系殺虫剤及び有機リン系殺虫剤等)を散布する。
- ・発生が多い場合は、効果が高く、残効性に優れる合成ピレスロイド剤(アグロスリン水和剤等)を散布する。ただし、本剤は天敵等に対する影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・防除指針：りんご138、143、146～147ページ、日本なし149～150、154、157ページ、かき166、169ページ、もも171～172、174ページ参照

2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。
- ・7月の降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・前年発生が多かった園地では、ユニックス顆粒水和剤 47 (2,000 倍) 又はオンリーワンフロアブル (2,000 倍) にオーソサイド水和剤 80 (800 倍) を加用して散布する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が 10 日以上開きすぎないように注意し、雨前防除を実施する。
- ・主枝や亜主枝から発生している新梢を適宜切除するとともに、枝つりや支柱入れを行い薬剤の到達性を高める。
- ・防除指針：138、140～141、145～146ページ参照

3 りんごの輪紋病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開きすぎないように注意し、雨前防除を実施する。
- ・防除指針：138、141、145～146ページ参照

4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月の気温はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生が認められた場合は早めに防除する。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・恒常的に発生する園地では、ミヤコカブリダニ剤（スパイカルプラス）を7月上旬に1～40パック／樹設置する。
- ・防除指針：138、142、144～145、147 ページ参照

5 りんごのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬のキンモンホソガの誘殺数は0頭で、平年（3.0頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 7月上旬（第2世代成虫の羽化最盛期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・ 防除指針：138、142～143、146～147 ページ参照

6 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 主要産地における現在までの発生量はかなり多かった。
- ・ 7月の降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・ 梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開きすぎないように注意し雨前防除を実施する。
- ・ 発生が多い園地では、中旬はベルクトフロアブル（1,500倍）にミギワ20フロアブル（4,000倍）を加用して散布する。また、下旬はナリアWDG（2,000倍）を散布する。ただし、QoI剤混合剤（QoI剤含む）及びSDHI剤混合剤（SDHI剤含む）は連用を避け、年総使用回数は原則2回以内とする。
- ・ 防除指針：149～153、156 ページ参照

7 日本なしの輪紋病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開きすぎないように注意し雨前防除を実施する。
- ・ 防除指針：149～153、156ページ参照

8 日本なしのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は5.9頭で、平年（1.6頭）よりやや多かった。

(3) 防除対策

- ・ 7月中旬（第2世代成虫発生盛期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・ 防除指針：149、153～154、157～158ページ参照

9 日本なしのハダニ類

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月の気温はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生が認められた場合は早めに防除する。
- ・ 殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・ 防除指針：149、155、157～158ページ参照

10 ぶどうのべと病

(1) 予報内容 発 生 量：並～やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ 現在までの発生量は平年並であった。
- ・ 7月の降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・ 7月は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・ 防除指針：160～163ページ参照

11 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の誘殺数は608.0頭で、平年（986.0頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 7月上旬（第1世代ふ化幼虫発生期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・ 防除指針：165～166、168～169ページ参照

1 2 ももの灰星病

- (1) 予報内容 発 生 量 : 並
 発生時期 : 並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
- ・り病した果実は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・除袋後にはDMI剤を散布する。ただし、耐性菌出現防止のため、年総使用回数は原則2回以内とする。
 - ・防除指針 : 171、173～174ページ参照

1 3 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発 生 量 : やや少ない
- (2) 予報の根拠
- 【少発要因】
- ・現在までの発生量は少なかった。
 - ・7月の降水量は平年並か多いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・夏型枝病斑は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針 : 172、174ページ参照

V 花き

1 きくの白さび病

- (1) 予報内容 発 生 量 : 並
- (2) 予報の根拠
- ・6月25日調査では一部の品種で発生が確認された。
 - ・7月の降水量は平年並か多いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・防除指針 190～191 ページ参照

2 きくのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量 : 並
- (2) 予報の根拠
- ・6月25日調査の1葉虫数は0頭で平年(0.1頭) 並に少なかった。
- (3) 防除対策
- ・防除指針 193～194 ページ参照

3 アブラムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・黄色水盤への有翅虫の6月1半旬～4半旬の合計誘殺数は150頭で、平年（299.5頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 188～212ページのアブラムシ類の項を参照

4 タバコガ類

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数はタバコガが0.9頭で、平年（5.3頭）より少なく、オオタバコガも0頭で、平年（2.6頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 196～212 ページのオオタバコガ、タバコガの項を参照

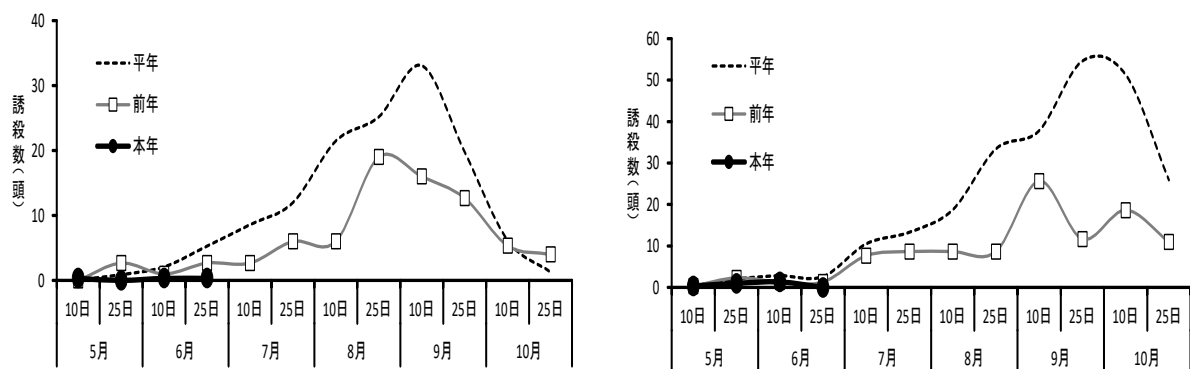


図9 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移
(左図：タバコガ 右図：オオタバコガ)

令和5年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」
- 富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4月13日～9月14日」

北陸地方 3か月予報
(予報期間 7月から9月)

6月20日
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

7月 期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)				
気温	北陸地方	07月～09月	20 40 40	
		07月	30 30 40	
		08月	20 30 50	
		09月	20 40 40	
降水量	北陸地方	07月～09月	20 40 40	
		07月	20 40 40	
		08月	30 40 30	
		09月	30 30 40	

低い(少ない)平年並高い(多い)